



なの葉さん。日本の伝統芸を多くの人に伝えたい、と語る。

INTERVIEW

なの葉さん

芸者なの葉さんに聞く お座敷で見る デキる男とは？

大森海岸一帯は明治の中頃、海水浴場の開設で一気に賑わい、料亭や置屋も誕生した。昭和30年代まで、都内でも有数の花街へと発展した。

『由の家』は当時の華やかなりし頃の「粋」を守り続けている。大森海岸随一の老舗芸妓置屋である。新橋や赤坂に比べて、格式ばらないのも大森海岸の花街の良さといえる。

最初に、なの葉さんら芸者衆の仕事について伺ってみた。芸者さんはお客さんとどう接するのだろうか？

「私達がお伺いするのは接待の場合がほぼ8割です。ひと座敷は2時間、まずご挨拶、食事やお酒を一通り召し上がって頂いた後、踊りを披露します。日頃踊りに精進しておりますので、日本の伝統芸をじっくり楽しんで頂きたいですね。その後は、花街に古くから伝わる『金毘羅ふねふね』などのお座敷ゲームをいたします。三味線のリズムに乗ってテンポ良く遊びます。ゲームに負けると『罰杯』^{ばつぱい}といってお酒を飲みますが、それが楽しみ、という方もいらつしやいますね。その後はまた、落ち着いてお話しをしたり、お酒を楽しんでいたとき、最後に幹事さんのご挨拶でしめします」

芸者遊びで忘れては
いけない掬いがある

「2次会にお誘い頂いても結構です。好みの芸者だけ誘いたい、という場合もあるでしょう。その時には、他のお姉さん(先輩芸者)方への気配りは、是非忘れないで欲しいですね。また、『心付け』を渡して下さる方もいらつしやいますが、そういう時は、やんわりと『お姉さんへ』と伝えます。お座敷では一番先輩に渡すのがルール。最初にお座敷に入るのが、その席での一番お姉さんです。さり気なく気配りができる方は、デキる殿方として、芸者の間でも一目置かれる存在になると思います」



お座敷ゲーム「金比羅ふねふね」。
三味線の音楽に合わせて遊ぶ。

粋を知って、男を磨け

「プライベートが充実し、趣味を大切にしている方、そういう方は仕事の間でもイキイキとしていると思います。ニュースやスポーツなどの話題を、さらりと提供できる方が、場を盛り上げていらつしやいます。お話し好きな方でも、『俺が、俺が』を全面に出して、ずっと喋り続ける方は、こちらも引いてしまうことがあります。お付きの芸者のことにも気配りをしてくださると、とても嬉しいですし、話し上手でもあり聞き上手でもある、バランスの取れた方はさすがだなと思います。

お酒が入り強引になってしまうとか、宴席で部下を叱りつけて、周りの人を緊張させてしまうような行為は、とても残念です。部下にも花を持たせることができる方、御本人も、周囲も楽しませることができているのだから、と感じます。女将さん衆のお言葉を借りると、『粋な人』がデキる男ではないかと。

「粋」には我慢が必要。間や場の空気を読んで自分は一步控える、そんなはからいができる方でしょうか」

芸者遊びでデキる男になる

あなたにだけ
教えます

大森海岸 芸妓置屋 由の家

オオモリカイガンゲイギオキヤ
ヨシノヤ | 大森海岸

④ 品川区南大井3-29-3
☎ 03-3761-0946

(受付10:00AM~10:00PM)
芸妓お座敷料(日本髪)2時間2万円
芸妓お座敷料(洋髪)2時間1万8000円
カード使用不可
(料亭で支払う場合カード使用可)
<http://yoshinoya-geigi.com/>

宴会に芸者衆を呼びたいと思ったら、まず料亭を予約。次に置屋(芸者の派遣業)に予約を入れる。予約時には、来てほしい芸者衆の人数を伝え、「洋髪」か「日本髪」かを指定。「白塗りの日本髪姿」を望むならば「日本髪で」と指定しよう。

バーやクラブなどは、客が店に向きその場の雰囲気に合わせて遊ぶもの。芸者遊びは、呼ぶ客側が、その場をカスタマイズできるのが醍醐味。「と

にかく賑やか」「しっとり」など、どんな宴席にしたいか、要望を伝えられる。「遠出」というシステムもあり、芸者衆の所属する花街以外の場所(パーティや催し物、花火や相撲見物の同行等)に連れ出すこともできる。そんなもてなしを、設けることができれば、接待の幅もぐんと広がる。まずは、芸者遊びに慣れることから。粋を学び、芸者遊びを上手にプロデュースするのが、デキる男の真骨頂というものだ。



踊りを披露するなの葉さんと伊佐路さん(左)。三味線は初乃さん。